

## プチャーチン来航図

貴志孫太夫 1855（安政2）年

今はこの喜びを分かち合おう！

ロシア艦隊司令官プチャーチンは、1855年に日露和親条約が締結された際の使節として知られています。来日時に安政東海地震（1854年）が起き、津波によって乗ってきた船が難破しました。このとき、幕府の許可を得て伊豆の船大工たちの協力のもと、新たな船「ヘダ号」を建造しました。この絵巻はその建造の様子を記録したものです。絵巻には、完成したヘダ号を前に日本人とロシア人が共に喜ぶ姿も描かれています。

### *The Russian Putyatin Mission, Kishi Magodayu, 1855*

Putyatin was a Russian Fleet Commander, who concluded the Treaty of Commerce and Navigation between Japan and Russia in 1855. This scroll shows both Putyatin's troops and Japanese enjoying the launch ceremony of a new schooner called *Heda*.





# プチャーチン来航 貴志孫太夫 1855年

今はこの喜びを分かち合おう!



ここにはある王家の紋章がかかれています。どこの王家かな?



人の名前が書き込まれているよ。白い部分に名前を書き出してみよう!

幕末の日本で初の西洋式の帆船「ヘダ号」です。この形は、のちに君沢形(きみさわがた)とよばれます。

【ヘダ号】  
この船の設計はロシア人乗員のアレクサンドル・コロコリツェフ少尉やアレクサンドル・モジャイスキーが担当しました。日本初の洋式船です。

【やってみよう】  
ロシア艦隊司令官プチャーチンを探してみよう!

【君沢形】  
ロシア外交使節のプチャーチンは、ロシアに帰るための船を必要としていました。そこで西伊豆君沢郡戸田村で船を造ることになりました。設計するにあたり、たまたまプチャーチンたちの乗っていた「ディアナ号」に、スクナー型帆船「オプイト号」が積んであり、

それをもとに設計され、日露共同で造船しました。以降この型の船は、君沢郡の名をとって「君沢形」と呼ばれるようになります。近代日本の造船業に多大な影響を与えた出来事であったと言えます。